

既存薬剤による認知機能低下予防に関するレトロスペクティブコホート研究**1. 研究の対象**

2000年1月～2015年12月までの期間、パーキンソン病、パーキンソン症候群として当院（国立病院機構宇多野病院）にて投薬加療を受けた方。

2. 研究目的・方法

本研究の目的は、過去の投薬内容とその後の認知症発症のリスクとに有意な関連があるかを明らかにすることです。この目的のため、過去との投与歴と高次脳機能に関するデータを診療録から収集します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：投薬歴、病歴、高次脳機能に関する記録、カルテ番号、投薬開始時の年齢、性別、臨床診断名等。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先：京都市右京区鳴滝音戸山町8 国立病院機構宇多野病院 澤田秀幸（神経内科）

研究責任者：国立病院機構宇多野病院 副院長 澤田秀幸

-----以上